

奈良県廃棄物処理計画

(第4次計画)



奈良県エコキャラクター
な～らちゃん

平成30年3月

奈良県

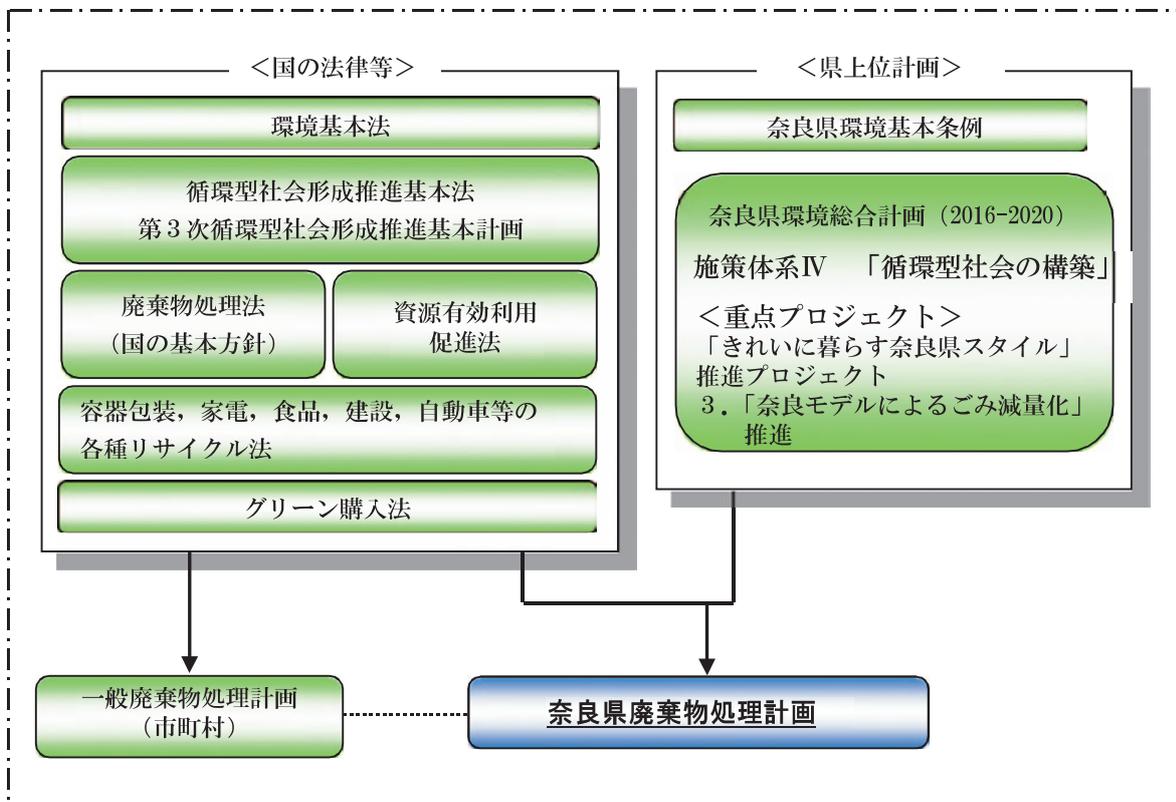
目次

1. 計画の位置付け	1
2. 計画の期間	2
3. 基本目標	2
4. 計画の対象（廃棄物）	2
5. 現状と課題	3
(1) 一般廃棄物	3
(2) 産業廃棄物	7
6. 数値目標	10
(1) 一般廃棄物	10
(2) 産業廃棄物	12
7. 施策の方向	14
8. 施策・事業の体系	16
9. 事業の概要	18
(1) 廃棄物の排出抑制の促進	18
(2) 廃棄物の循環的利用の促進	21
(3) 廃棄物の適正処理の推進	24
(4) 廃棄物の不法投棄・不適正処理の撲滅	28
(5) 災害廃棄物処理対策の推進	31
(6) 県・市町村の連携・協働（奈良モデル）による施策推進	33
10. 推進計画	35
(1) 各主体の役割	35
(2) 計画の進行管理	39

1. 計画の位置付け

- ・本計画は、廃棄物の処理を通して、県民の生活環境の保全、県内産業の健全な発展に資することを目的に、3R（リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用））をはじめ循環型社会形成を推進するため、県民、NPO、事業者、行政等の各主体が中長期的に取り組む基本的な方向を示すものです。
- ・廃棄物処理にかかる広域及び効果・効率的な観点から、県と市町村が連携・協働して各種施策を推進するための計画（奈良モデル※）として策定します。
※奈良モデル：質の高い行政サービスを提供し、行政を効率的に運営するために、県と市町村または市町村同士の連携・協働について、奈良県にふさわしいあり方を検討し、実現する取り組みのこと。
- ・廃棄物処理法（以下「法」という。）第5条の5に基づき策定する計画であり、「奈良県環境総合計画（2016・2020）」を上位計画とし、「新奈良県廃棄物処理計画（期間：平成25～29年度。以下「前計画」という。）」の進捗状況、及び県内市町村の一般廃棄物処理計画等を踏まえ、新たに策定する計画です。

【計画の体系(上位計画等との関係)】



2. 計画の期間

平成 30 年度～平成 34 年度までの 5 年間 ※前計画 平成 25 年度～平成 29 年度

3. 基本目標

未来に生きる「ごみゼロ奈良県」の実現

奈良県は、我が国を代表する歴史文化遺産や豊かな自然環境に恵まれています。私たちは、これらの貴重な財産を守り、活かしながら、次の世代に引き継いでいかなければなりません。そのためにも、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減される持続可能な社会、いわゆる「循環型社会」の構築を目指す必要があります。

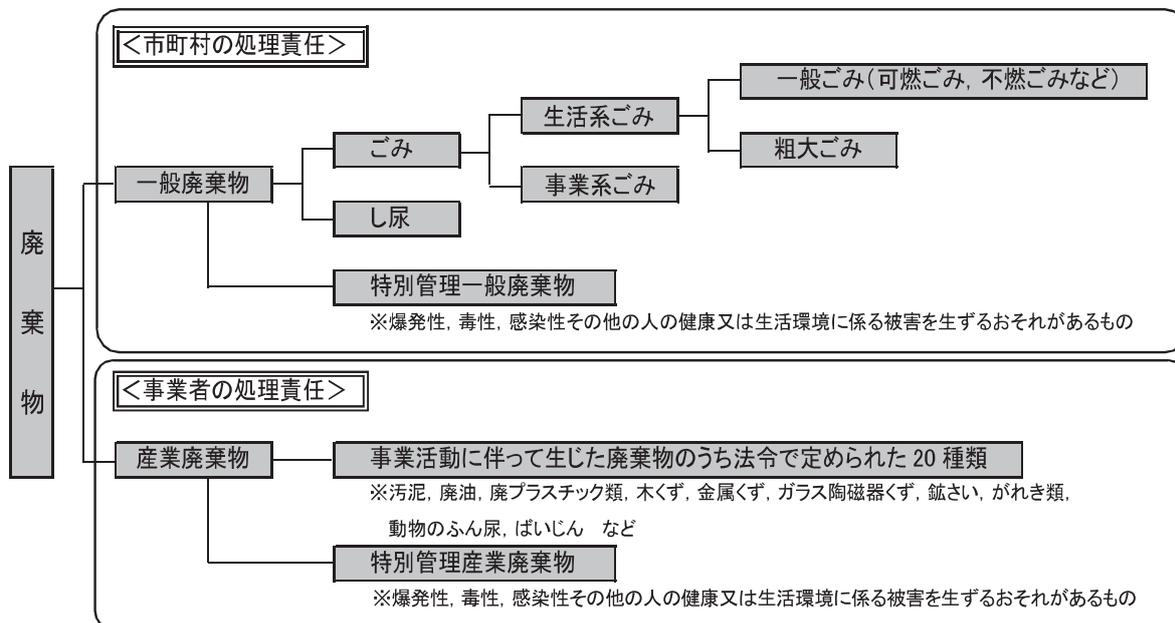
「循環型社会」を指向することは、地域の生活環境だけでなく、景観や地球温暖化対策、生物多様性の保全などさまざまな環境課題に貢献できるものであり、奈良県環境総合計画の重点プロジェクトである「きれいに暮らす奈良県スタイル」構築のベースとなることから、県民一人ひとりが日々の暮らしの中で資源やエネルギーを大切にす「環境に配慮したライフスタイル」の促進を図ります。

また、前計画において取り組みをスタートさせ、県と市町村が連携して推進してきた奈良モデルによる「ごみ処理の広域化」の取り組みを継続・発展させながら、奈良県の地域特性に適した 3R（リデュース、リユース、リサイクル）等を促進することにより、さらなる「ごみの減量化」に向けて県民をはじめ多様な主体による積極的な実践活動の普及・拡大を図ります。

これらの取り組みにより、「きれいに暮らす奈良県スタイル」の構築に資するとともに、それらを未来に継承していくことを目指し、前計画に引き続き基本目標を「未来に生きる『ごみゼロ奈良県』の実現」とします。

4. 計画の対象（廃棄物）

・法第 2 条第 1 項に規定する廃棄物で、県内で排出又は処理されるものを対象とします。



5. 現状と課題

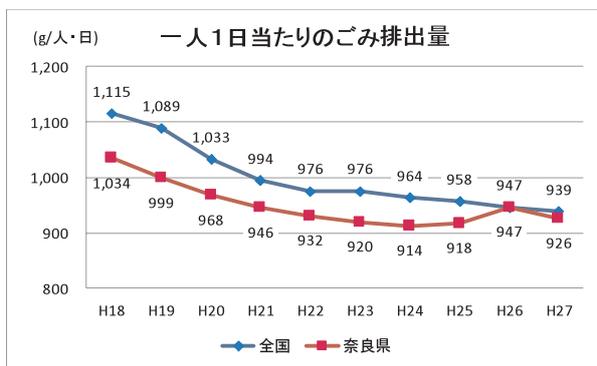
(1) 一般廃棄物

① 排出量

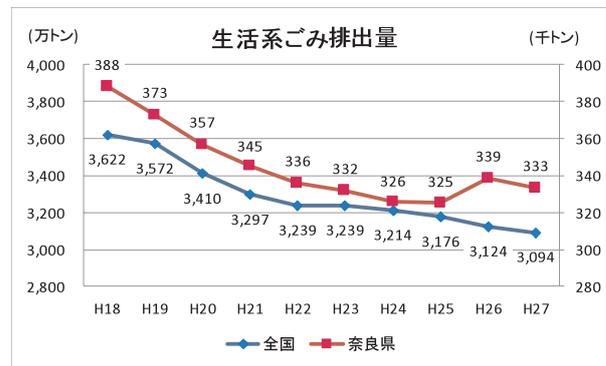
- ・排出量は、前計画目標値（446千トン）の達成は困難な見込みである。一人1日当たりのごみ排出量は全国平均に比べて約1.4%少ないが、近年は全国平均に近づく傾向にある。（平成27年度 全国16位）。
- ・生活系（家庭）ごみの排出量は、平成29年度見込みは330千トンで、前計画目標値（309千トン）の達成は困難な見込みである。また、生活系ごみの排出量の減少トレンドが全国に比べて緩やかである。
- ・一方、事業系ごみは平成27年度実績が137千トン、平成29年度見込みが138千トンで、前計画目標値（137千トン）を概ね達成の見込みである。

		平成22年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成29年度 (目標値)	平成29年度 (推計値※)	評価
排出量	生活系(家庭) ※集団回収含	336千トン/年 650g/人・日	333千トン/年 656g/人・日	309千トン/年 602g/人・日	330千トン/年 655g/人・日	達成困難
	事業系	146千トン/年	137千トン/年	137千トン/年	138千トン/年	概ね達成見込
	計	482千トン/年 932g/人・日	471千トン/年 926g/人・日	446千トン/年 870g/人・日	467千トン/年 929g/人・日	達成困難

※平成29年度推計値は平成23年度から平成27年度までの5年間のトレンドで推計



出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）



出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

【関連指標等】

- ・ごみ処理有料化の市町村比率（H27） 奈良県 72%、全国 61%
- ・ごみ処理有料化の人口比率（H27） 奈良県 50%、全国 43%
- ・一人1日当たりのごみ排出量（H27） 全国 16位 ※出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

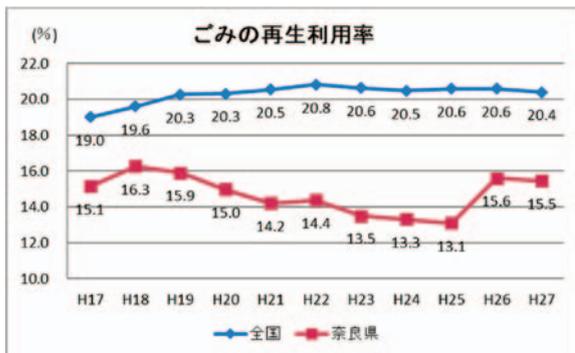
② 再生利用率

- ・再生利用率は、前計画目標値（25.0%）の達成は困難な状況（平成27年度15.5%）であり、全国平均（20.4%）に比べて約5ポイント低い水準。
- ・全国平均に比べると金属類、ガラス類、ペットボトル等について再生利用が進んでいない

【関連指標等】

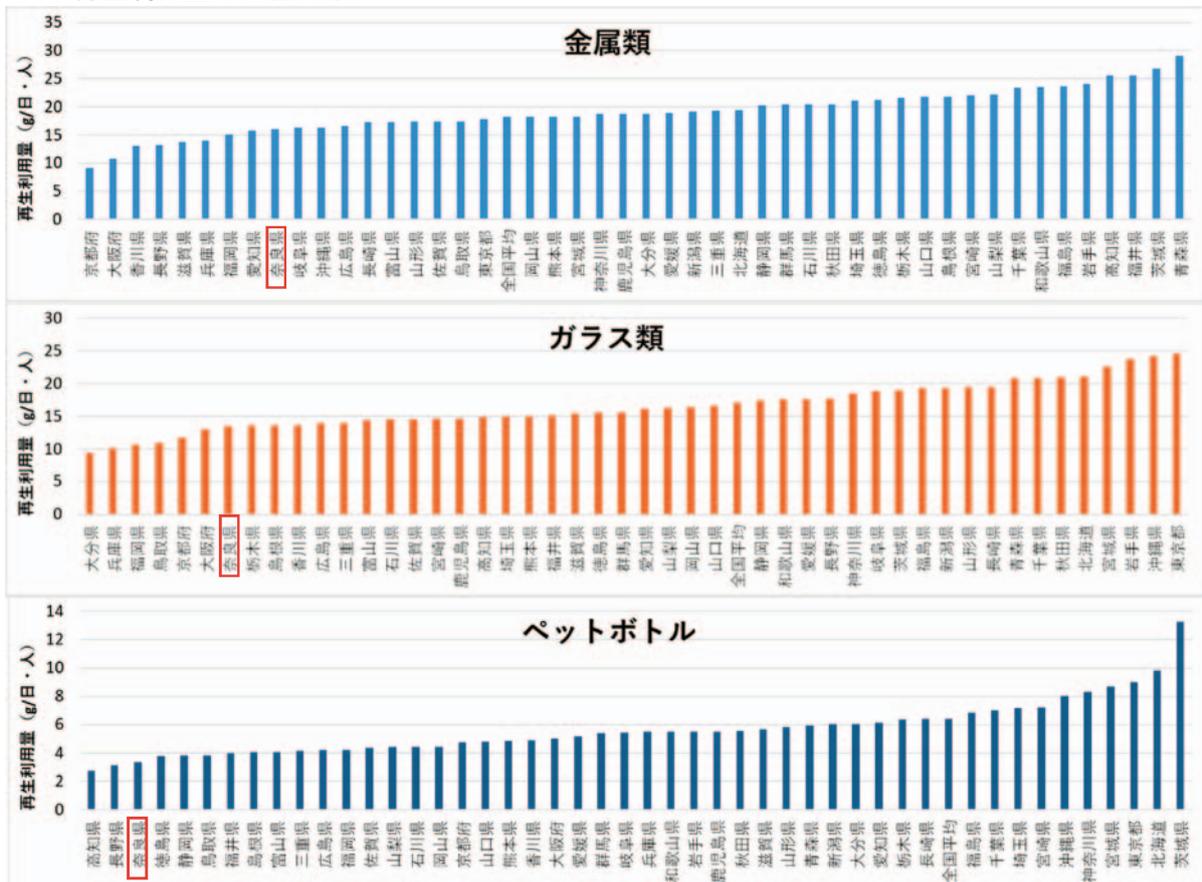
- ・ごみ再生利用率（H27） 全国40位
- ・ごみ分別数（H27）全国45位（県内市町村8.8品目 全国13.4品目）

	平成22年度 （実績）	平成27年度 （実績）	平成29年度 （目標値）	平成29年度 （推計値※）	評価
再生利用率 （再生利用量）	14.4% （69千トン/年）	15.5% （73千トン/年）	25.0% （113千トン/年）	15.3% （71千トン/年）	達成困難



出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

◆再生利用量の全国比較

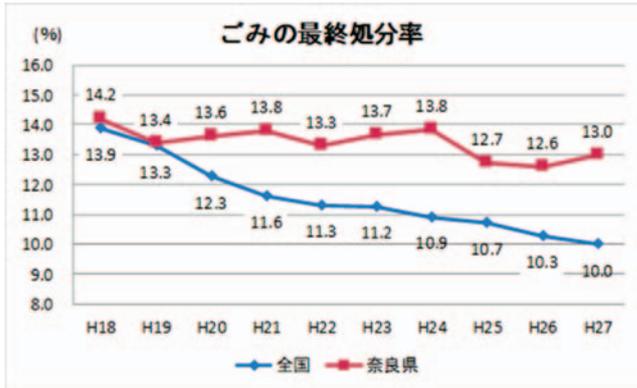


出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

③ 最終処分量（埋立処分）

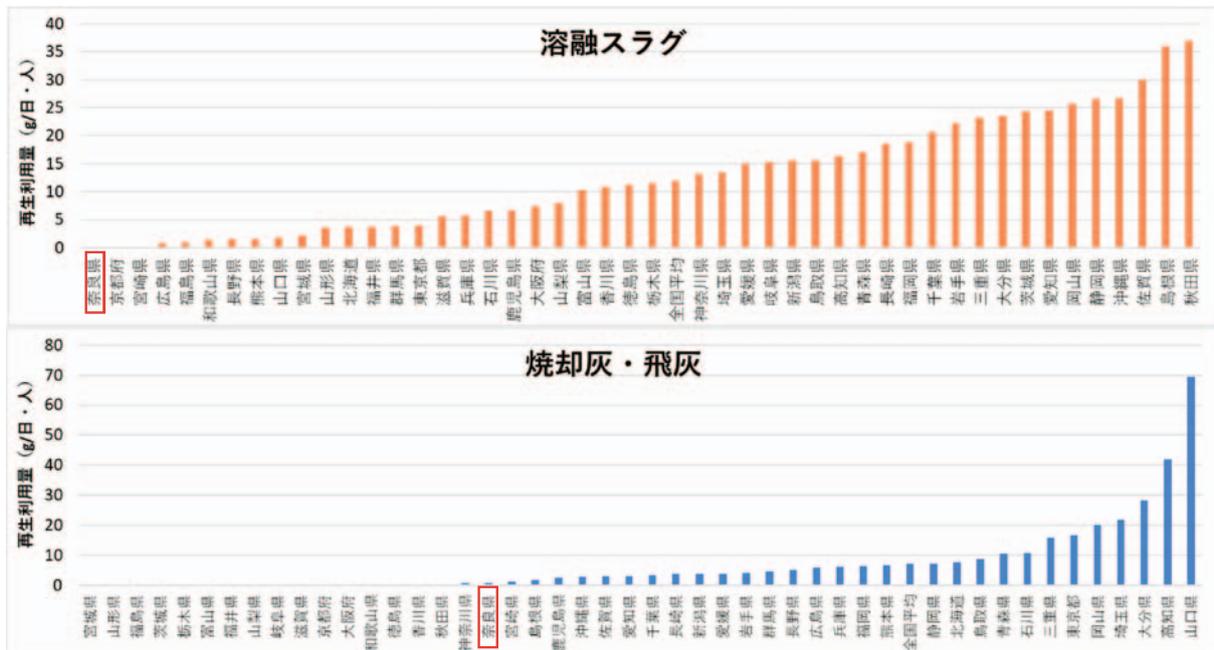
- ・前計画の目標値（46千トン）の達成は困難な状況であり（平成27年度 61千トン）、最終処分率は全国45位。
- ・焼却灰、溶融スラグ等について中間処理後の再生利用が進んでいないため、最終処分量が減少しない要因となっている。

	平成22年度 （実績）	平成27年度 （実績）	平成29年度 （目標値）	平成29年度 （推計値※）	評価
最終処分量 （最終処分率）	64千トン/年 （13.3%）	61千トン/年 （13.0%）	46千トン/年 （10.3%）	61千トン/年 （13.0%）	達成困難



出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

◆再生利用量の全国比較



出典：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）

奈良県の再生利用状況

		ペットボトル	容器包装 プラスチック
全国平均	g/人・日	6	14
奈良県	g/人・日	3	2
順位	位	45	46

◆課題

- 長期的にごみ排出量は減少傾向だが、生活系ごみの排出量はここ数年下げ止まっている。さらなるごみ減量に向け、生活系ごみの発生抑制に係る取組を強化する必要がある。
- 再生利用率は平成 26 年度にやや増加したものの、平成 18 年度をピークに減少傾向にあり、全国平均と大きく乖離している。最終処分率も平成 27 年度は前年度から増加しており、対策が必要である。
- 1 人 1 日当たりの再生利用量の内訳を見ると、全国平均に比べてペットボトル、容器包装プラスチックなどについて再生利用量が少ないことから、分別収集による再生利用(資源化)を進める必要がある。

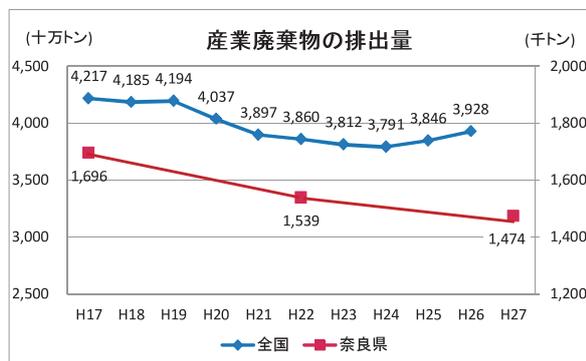
(2) 産業廃棄物

① 排出量

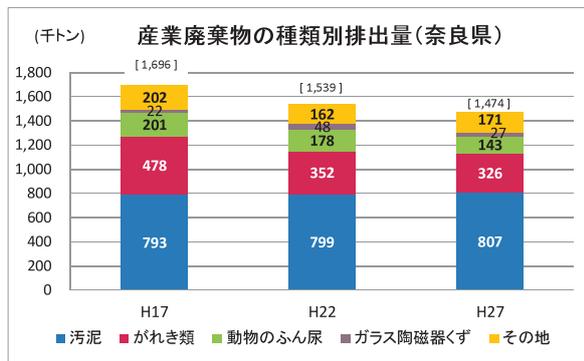
- ・平成27年度実績（1,474千トン）で前計画目標値（1,560千トン）を超えて目標達成の見込み。

	平成22年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成29年度 (目標値)	平成29年度 (推計値※)	評価
排出量	1,539千トン/年	1,474千トン/年	1,560千トン/年	1,452千トン/年	達成見込

※平成27年度実績、29年度推計値は「奈良県産業廃棄物実態調査報告書（平成28年度版）」の値を用いた。（一部業種を除く）



出典：奈良県産業廃棄物実態調査（奈良県）
産業廃棄物の排出及び処理状況等（環境省）

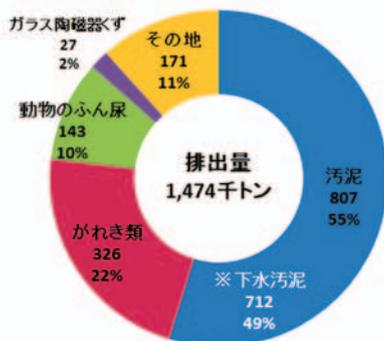


出典：奈良県産業廃棄物実態調査（奈良県）

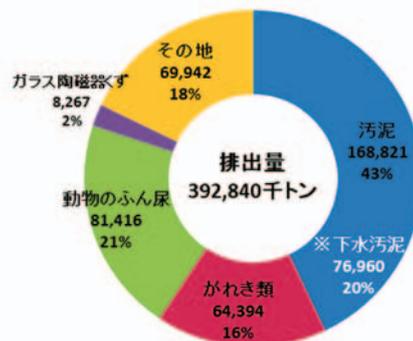
【関連指標等】

- ・奈良県の排出量は全国の0.4%で、全国の中で少ない方から3番目。※環境省調査（H26）
- ・国基本方針の目標（排出量約1%増（H19～27）に抑制）に対して、奈良県は約4%削減（H22～27）。
- ・下水道普及率向上（H22/74.4%→H27/78.9%）により汚泥排出量が増加傾向（H22/799千トン→H27/807千トン）にあるが、汚泥以外の産業廃棄物の排出量は減少傾向（H22/740千トン→H27/667千トン）。今後、汚泥排出量については、下水汚泥の有効活用を検討していることから、減少することが見込まれる。

奈良県の産業廃棄物の排出量(H27)



全国の産業廃棄物の排出量(H26)



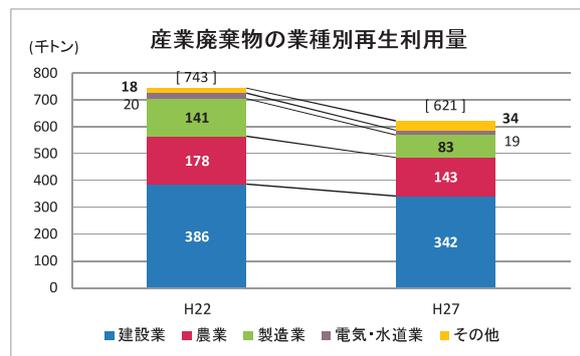
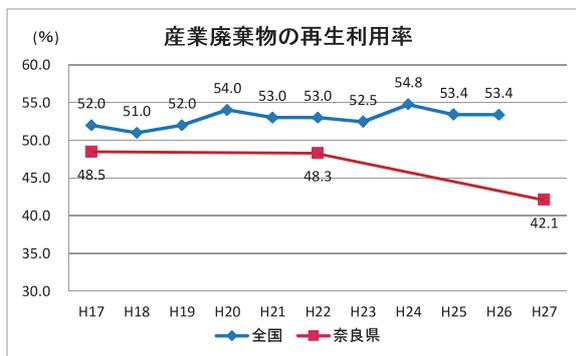
出典：奈良県産業廃棄物実態調査、産業廃棄物の排出・処理状況調査報告書（環境省）

②再生利用率

- ・奈良県は排出量に占める下水汚泥の割合が高い（奈良県 48%（H27）、全国 20%（H26））。
- ・下水汚泥（再生利用率低い）が増加、建設系廃棄物（再生利用率高い）が横ばいから減少傾向にあり、排出量に占める下水汚泥の割合が増加したことで、再生利用率は減少。前計画目標値（48.0%）は達成困難な見込み。

	平成22年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成29年度 (目標値)	平成29年度 (推計値※)	評価
再生利用率 (再生利用量)	48.3% (743千トン/年)	42.1% (621千トン/年)	48.0% (749千トン/年)	41.3% (599千トン/年)	達成困難

※平成29年度推計値は「奈良県産業廃棄物実態調査報告書（平成28年度版）」の値を用いた。（一部業種を除く）



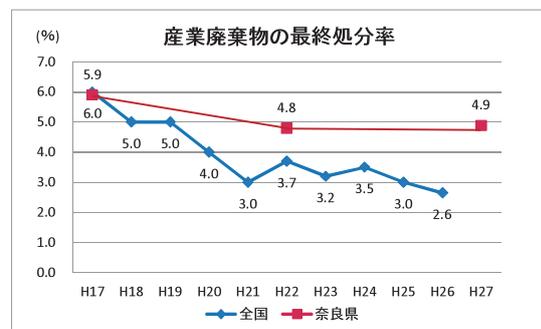
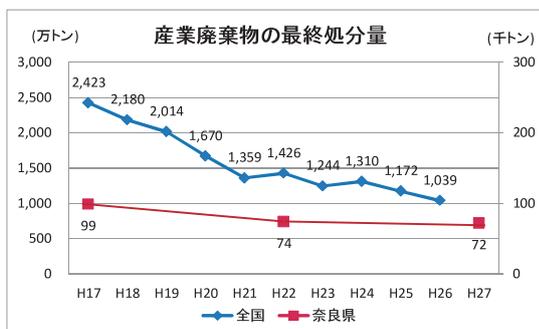
出典：奈良県産業廃棄物実態調査、産業廃棄物の排出・処理状況調査報告書（環境省）

出典：奈良県産業廃棄物実態調査

③最終処分量（埋立処分）

- ・排出量が多い汚泥・がれき類の最終処分率が全国平均より低い水準で、前計画の目標値（64千トン）は達成困難（平成27年度72千トン）。
- ・最終処分率（4.9% 平成27年度）は全国平均（2.6% 平成26年度）に比べて2.3ポイント低い水準。

	平成22年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成29年度 (目標値)	平成29年度 (推計値※)	評価
最終処分量 (最終処分率)	74千トン/年 (4.8%)	72千トン/年 (4.9%)	64千トン/年 (4.1%)	71千トン/年 (4.9%)	達成困難



出典：奈良県産業廃棄物実態調査、産業廃棄物の排出・処理状況調査報告書（環境省）